

## 小矢部市まちづくり研究会（第3期生）第2回会議要旨録

日 時：平成 22 年 8 月 11 日（水）午後 7 時～

場 所：小矢部市役所 4 階講堂

出席者：【委員等】野手貢座長、岩田千波副座長、荒谷まさこ委員、渡邊克明委員、木下浩明委員、西村哲也委員、村西みどり委員、武部佳子委員、高田康一委員、能登啓之委員、中川利昭委員、松田充弘委員、青山千恵美委員、小田友加里委員、奥由香理委員、神田春佳委員、義浦監事、北監事  
【市】佐野市民協働課長、横川課長補佐、松井主任

### <開会>

#### 1 座長あいさつ

#### 2 意見発表（小矢部市の現状と課題等について）

（意見発表に入る前に、前回欠席の青山委員の紹介、義浦監事・北監事の紹介）



（事前に提出された課題レポートを一覧化した資料1に基づき、各委員から意見発表。主な意見は次のとおり。詳細は、別紙資料1。）

##### 【①小矢部市の現状】

- ・閉鎖的なイメージがある。
- ・若者があまりいないイメージがあり、また、若者が集う場所がない。
- ・交通のアクセスがいいというが、砺波、金沢までのアクセスがいいのでかえって小矢部で滞在しない。
- ・市外・県外からの観光客からは、小矢部市は通過点になっている。
- ・子ども医療費が小学校 6 年生まで無料や出産等交通費助成制度などの金銭的な助成、病後児保育や赤ちゃん訪問などの金銭以外の助成など、子育て支援が充実している。
- ・アパートへの転入者や家の新築への助成など定住促進支援策も充実。
- ・イメージキャラクター「メルギューくん」がかわいい。他市町村の女性からも評判がいい。
- ・桜町遺跡、クロスランド、宮島峡、多くの寺など地域の宝を活かしきれていない。
- ・買い物、食事など市外に出かけてしまうことが多い。
- ・メルヘンのまちとしてアピールしているが、公共施設のメルヘン建築だけで、それ以外に「メルヘン」のイメージがない。「道の駅メルヘンおやべ」も建物、内装にメルヘンのイメージがない。
- ・保育所の待機児童がゼロであることや独居老人が少ないことなどいいところもある。
- ・若者の流出がある。
- ・交通網がよいが、小矢部は、通過点になることが多い。
- ・越前町をみていると休日に交通量が激減。
- ・若者が住みたいと思えるような魅力がない。（食事に行くお店や、娯楽施設などが少ない。）
- ・徒歩や自転車で駅に行きにくい。

- ・人口の減少が続いている。
- ・他市に誇れる文化や伝統、特産物が多くある一方で、やや閉鎖的で、他を受け入れにくい市民性がある。
- ・生活していく分には申し分ないが、ミニSLやヘリフェスなどいいが、お金を使って遊べる魅力的な施設やイベントが少ない。
- ・まちの雰囲気に行き詰まり感がある。
- ・県境ということを活かせていない。



### 【②小矢部市の課題】

- ・閉鎖的なイメージを打破する必要がある。
- ・小矢部市内で楽しめる場所を発掘する努力が必要。
- ・通過していく観光客をどう呼び込むかが重要。
- ・市民（特に児童・生徒）にどのような農産物が市内で、生産されているか知ってもらいたい。
- ・縄文遺跡や、メルヘン建築、宮島峡など、見どころはあるけど、どれがメインか分からない。特に若者や女性が「行ってみたい」と思える場所が、乏しい感じがする。
- ・少子高齢化と人口減少への対策（市外からの転入が少ない。）
- ・小矢部市の魅力を情報発信する力が弱い。
- ・北陸、東海北陸、能越自動車道など高速道路のアクセスがいいが、小矢部に下りて何かしてもらおうという取り組みが足りない。
- ・市外に対しての特産品等のPRが足りない。
- ・交流人口の増を見込むことで、イベントの数を増やすあまり、ひとつの核になるものがないように感じる。（手あたり次第やっているのでひとつの核がない。）
- ・転出した新婚夫婦にその理由を聞いたことがあるが、「勤務地から遠い」「買い物に不便」といった理由だった。このことから「雇用環境」と「生活環境」の充実が重要だと考える。この二つがあってはじめていろんな取り組みが生きてくる。
- ・小矢部市のアピールポイントや魅力が伝わっていないこと。選び出して伝えることが必要。
- ・メルヘン、バラ、源平、縄文などを題材にしたまちづくりのテーマはあるが、どれも平均的でインパクトに欠けるため、かえって小矢部市の個性を分かりにくくしている。
- ・若い人たちが評論家ばかりで、実際にアクティブに動かれる方が少ない。

### 【③まちづくりについて（提案）】

- ・まち研や市、他の団体、会議での取り組みを継続的にブラッシュアップする。定住促進の会議など、一つのことをずっと研究していく会議があったらいい。
- ・初心者向けのアウトドア施設（キャンプ場、バーベキュー場）があったらいい。（あるにはあるが、不便である。初心者向けがいい。）
- ・地元発信のアイドルユニットがあればいいのでは。
- ・メルギューくんがかわいいので、キャラクターを活用してPRしていくとよいかも。たとえば、若者に周知したいのであれば、近隣の大学にポスターを貼らせてもらうなど。（学生時代



に、大学に砺波チューリップフェアのポスターがあり、興味を持った友達が砺波まで出かけていました。)

- ・小矢部の特産品を使用したスイーツの開発。辻口博啓などの著名なパティシエにプロデュースしてもらう。
- ・小矢部市は、自然環境、交通立地環境、農・畜産などの食の地場産業に優れており、とても暮らしやすいところだが、安心して子供を産み育てることができ、健康的な老後を送れるまちづくりのために、北陸中央病院の充実した施設を利用して、予防医学、健康増進の拠点作りをしたらどうか。
- ・大学進学者に対する奨学金制度（Uターン就職して小矢部に定住した場合は、奨学金返済の一部もしくは全部を免除）を実施したらどうか。
- ・クロスランドをもっと有効活用する。（空中カフェはよかった（長蛇の列）。）
- ・土、日、祝日に集客できる商業施設（無料のまんが喫茶など）をつくったらどうか。（道の駅のドッグランは人気がある。こういった無料の施設は人を呼べる。）
- ・畦道など昔ながらの田舎の風景を残し、都会からのUターン、帰省者数及び来訪者の滞在日数を増やす取り組みを考える。（田舎の風景をインターネットで配信。）
- ・エッグホッパーを市民の定番メニューにする。（レシピをつくる。専用の粉をつくるなど。）
- ・まちづくりは模倣から始まるが、始めたら徹底的にやる。何事も中途半端では自信を持ってアピールできず、「まち」の活性化も期待できない。
- ・「なぜ小矢部市に住まないの？」という言葉より、「〇〇などいいところですよ。暮らしてみても？」という言葉の方が効果的ではないか。
- ・“食”などまちづくりのテーマを絞り、それらに関連したイベントや商品などの企画やPR活動の展開。
- ・市民活動を公的にサポートできる制度ができないか。
- ・ミニSLをトーマスランド化してみる。
- ・メルヘン建築めぐりのウルトラマラソンやゆるキャラ大会などができないか。

### 3 協議事項

（今後どのように、第3期生を運営していくか、また、研究テーマ等を決めていくかについて、フリーディスカッションで、意見を出し合った。以下は、その内容の要旨。）

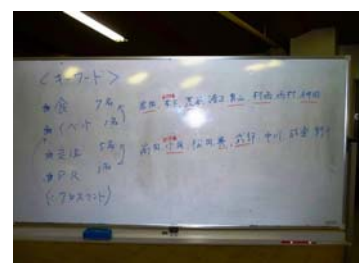
- ①分科会（班）について、テーマを絞ってから班分けするか、班分けしてからテーマを決めるかなどを意見交換したところ、「現状と課題」の意見発表を踏まえてのまちづくりの“キーワード”を各委員から出し合い、集約した。

〈集約されたキーワード〉

- 食
- イベント（主にクロスランド）
- 定住促進
- PR

- ②次に、集約されたキーワードに対し、自分がやってみたい研究テーマに近いものはどれか、挙手いただいた。

〈集約された各キーワードへの投票数〉



- 食 ⇒ 7名
- イベント ⇒ 1名
- 定住促進 ⇒ 5名
- PR ⇒ 3名

③さらに、これらのキーワード別の投票数により、どのように班分けするか協議したところ、  
●第1班は、“食”、“イベント”での研究を行う班とし、また班長についても立候補、推薦等で、決定した。メンバーは次のとおり。

#### 第1班メンバー

木下班長、岩田副座長、荒谷委員、渡邊委員、青山委員、村西委員、西村委員、神田委員

●第2班は、“定住促進”、“PR”での研究を行う班とし、同様に班長も決定。

#### 第2班メンバー

小田班長、野手座長、高田委員、松田委員、奥委員、武部委員、中川委員、能登委員

## 4 その他

座長からの提案として、グループオンライン（メーリングリスト）を活用し、今後、各委員間のコミュニケーションを高めていきたい。

## 5 次回開催日

- ・平成22年9月7日（火）午後7時から

（閉会のあいさつ（野手座長））

みなさんのご協力により、無事会議を終えることができました。ありがとうございました。

<閉会>